

122

世界の動向と吾人の覺悟

京都府神職會

3/11 特240 440

院議員吉田茂氏述

3/11



0003380-000

特240-440

世界の動向と吾人の覺悟

吉田茂・述

京都府神職會

昭和13

ABA



特240  
440

本書は去る六月二十五日本會主催時局講演會に於ける貴族院議員吉田茂氏の御講演の速記を講師の校閲を経て印行したるものなり。

昭和十三年八月

### 京都府神職會

## 世界の動向と吾人の覺悟

貴族院議員 吉田茂氏述

只今神職會長さんから御紹介を戴きました吉田でございます。

今日の我國の未曾有の重大時局に際しまして京都市民で居らせられる皆さん方に、時局に就てのお話を申上げよといふことで罷り出ました次第であります。私より改めて何等申上げませすとも過去久しきに亘つて天子様のお膝元に生を營み來られました皆様方と致しましては、既に御奉公の志に於ては何等缺くる所がないと私は確信する次第であります。併しながら又一方考へますと吾々は此の比類なき尊い日本の御國に生を受け殊に皆様方としては日本の國として最も尊い御由緒に富んだ此の京都にお住ひになつてをりますので、吾々自ら省みまして、御國の尊さ有難さといふものに馴れて、餘所の國がどうであるか、今回の日支事變といふことに就きましても果して日本は對世界的に如何なる地位に





立つて居るかといふやうなことに就きましては、吾々が餘りに恵まれ過ぎて居りまする爲に、動もすれば、此の頃の流行り言葉で申す認識不足に陥らないとも限らないと思ふのであります。随つて今晚は現地のことには就きましては後程館閣下から尊い御體驗に基くお話が十分にございますと考へますので、私は此の事變が我國に取つて又我國と支那は固よりのこと其の外世界の國々との間の關係に於きまして如何なる重大な意味があるか、といふことに就きまして、私の考を申し上げまして、皆さんの此の非常重大時局に於ける御奉公のお覺悟をお固めになる上の一つの御參考に致したいと考へる次第であります。

今回の事變は、皆様もまだ御記憶に新たであります通りに、今より一年足らず前、七月の七日に北支蘆溝橋に於きまして初めて支那の軍隊と我が皇軍とが砲火を交へましたことに其の端を發して居るのであります。當時多くの人々は日本と支那との間に事端を發することは彼我双方の此の上もない不幸であるから、願くは事件不擴大、現地解決といふことに致したいといふことを望んだ譯であります。併しながら事件は益々擴大し現地の解決といふやうなことは到底出來ないといふことが今日になりましては何人にも極めて明瞭で

あります。何故事件が此のやうに大きくなつたかといふことを吾々は能く辨へて居りませぬと又今後に處する上に於きまして飛んでもない勘違ひをしないとは限らないと思ふのであります。それは日本の爲には素より支那の爲にもならないことでありますし、延いて世界の人類全般の上に取りましても此事件の本當の意味といふものを正しく認識して居らぬといふことは最大の不幸であると私は思ふのであります。

最近、と申しましても、數十年前に遡る次第であります。日本の大陸經營の問題といふものは明治御一新後に於きまして、先づ西郷南洲先生の征韓論といふものに現れて参つたのであります。當時に於きましても御一新早々の日本として大陸に事を構へるといふことは甚だ穩かでないと思ふ考の向が多うございました爲に西郷先生の征韓論は廟議の容るゝ所とならずして西郷先生は故山に引退をせられて遂に所謂明治十年の西南戦役に於きまして、故郷に骨を埋められました次第であります。併しながら日本の大陸經營の國家的使命といふものは決して征韓論が破れたことに依つて、又西郷先生が不幸せな生涯を終られたことによりましてなくなつてしまつた譯ではないのであります。西郷先生が亡くなられ



ましてから十餘年を経まして必然に明治二十七八年の日清の戦役になり、日清戦争の時分には私はまだやつと尋常科の小學生でありましたから、當時の事柄を正しく自ら記憶を致しては居りませぬけれども、當時何故日本が支那に對して戦つたかといふことは支那自身にも分らない、随つて當時清國政府は日本の宣戦布告に對して極度の狼狽をしたのであります。相手の支那に分らない位でありますから、ヨーロッパ各國にも素より日本の支那に對して奮起致しました意味が分らないのであります。其の時分に支那と云ふ國は廣大無邊な領土を有し、數千年の歴史の上に築き上げられた一大帝國である、今でこそ支那は何にもしない、けれどもこれはスリーピング、ライオン、眠れる獅子である、日本は小つぽけな國で、當時の日本はお年寄の方は御記憶でありませうが人口僅に三千萬であります、私共は小學校で、「三千萬の兄弟よ」と歌つたのであります、支那は當時から四億の民衆と廣大な國土を擁して居る、日清戦争直前には支那の海軍提督、丁汝昌と云ふ名將が北洋艦隊の精銳をすぐつて、鎮遠、定遠といふやうな日本に持つて居らない鋼鐵艦——今日は軍艦は皆鋼鐵艦であります——當時鋼鐵艦と云へば非常に珍しいのであります。それ

が東京灣に入つて來て日本の海軍を睥睨した、其の偉大な支那に對して小つぽけな日本が戦を挑んだ、まるで生卵を石に打つつけるやうな、眠れる獅子が猛然起ち上るならば日本は粉微塵になるだらう、何で朝鮮東學黨事件なんかを理由にして支那に戦を挑んだか、それは自滅の一路を辿るに違ひないといふことをヨーロッパの各國では感じたのであります。ヨーロッパ諸國の算盤勘定的な考へ方から云ひましたならばこれ位無謀なことはい。仁義の御戦といふことで當時の日本國民は國を擧げて奮ひ起つたのであります。仁義の戦と云ふやうなことはこれまでの歐米或は支那に於きまして、度々いはれたことあります、十字軍の聖戦だとか何とかいはれたことはありますけれども、彼等は口にはそれを言ひましても日本人のやうに眞つ正直に道の爲に戦ふ、仁義の爲に戦ふ、弱きを助けて強きを拉ぐといふやうなことを實際には實行したことはないのであります。彼等のこれまで實際行ひましたことは強きを助けて弱きを拉ぐといふことばかりやつて居る、随つて日本の言つて居ることは外交辭令として受取ること出來るかも知れぬけれどもやつて居ることは逆も譯は分らぬといふことが其の時分の世界の論調であつたかと思ふのであり



ます。然るにそれらの國々の豫想を全然裏切つて、我が皇軍が破竹の勢を以て當時の清國の精銳と稱せられる軍隊を破り丁汝昌の北洋艦隊を破つて丁汝昌は毒を仰いで威海衛に自殺をする、世界は目を瞠つて驚いたのであります。

然るに當時の日清戦役の結果によりまして東亞の問題は決して終局的に安定をしたのではないのであります。日本の皇軍の動きました究極の目的は朝鮮半島にすらも十分に達成せられない。ロシア、ドイツ、フランス三國干渉といふものがございまして、遼東半島を還付、爾後臥薪嘗膽の十年間が続いて日清戦役の結果は必然に日露戦役といふものに及んだのであります。

日露戦争の時には更にロシアを初めとして世界の各國が日本の宣戦布告を意想外に考へたのであります。當時のロシアはツアアの支配の下に世界第一の陸軍國であります、領土はヨーロッパからシベリヤに跨がつて世界一の廣大無邊な領土を有して居る。海軍のバルチック艦隊といふものは將にイギリスの無敵艦隊を凌ぐばかりの勢を呈して居る、陸軍にはクロバトキン將軍といふやうな世界的の戦術の大家が之を統べて居る、海軍の提督とし

てはマカロフ提督、此の人も亦世界海軍の權威者であります。日本の陸海軍の軍人が皆共に教を仰ぐだけの世界の權威者であります。之に對して弱小日本が起ち上つたと云ふことは何の意味か分らない、日本は國を潰す爲に戦をするのでないか、まさか日本が宣戦の布告はしまいといふことをロシア政府では信じきつて居つたのであります。併し吾々の先輩は起ち上つた、さうして向ふ所敵なくしてクロバトキン將軍は奉天の大會戦に於て我が皇軍に破れた、ステツセル將軍と云ふ世界の名将も乃木將軍に依つて旅順に於て降服の已むなきに至つた。ロシアの海軍の精銳を誇るバルチック艦隊は我が東郷大將に依つて日本海にも入り得ずして對馬海峡に於て殲滅の憂目に遇つた。世界は又再び驚いたのであります。

日露戦争によりまして漸くにして日韓の合邦と云ふことが出来上つた、西郷先生が征韓論を唱へられましたから正に二十數年の歳月を其の間に經てをります。遠く歴史を遡つて考へます時に、神功皇后の三韓の御戦以來千數百年を經まして日韓合邦、半島國民と我々と一視同仁の御恩澤に浴することが出来るやうになつた。



それでも其の後朝鮮半島には最近まで、萬歳騒動と云ふやうな騒動が起つて居りましたが、今回の事變に依りまして漸くにして明治天皇の、以前の韓國、今日の朝鮮半島統治の御方針としてお示し遊ばされました一視同仁の聖旨といふものが略々徹底し得るに至りました。半島國民も亦喜んで自ら志願して銃劍を執つて今回の事變に御奉公すると云ふ所まで参つたのであります。

歴史は洵に悠久であります。併しながら断えず一つの方向に向つて堅實に進展しつゝあるのであります。そこに吾々は大日本帝國の使命といふものを深く辨へなければならぬと思ふのであります。

此の同じ精神を日露戦争によりまして十分に解決せられることを得なかつた、滿洲の問題で數年以前に滿洲帝國の建設といふことによりまして之を解決する端緒を開いたのであります。滿洲建國といふこともヨーロッパ流の利害打算、算盤勘定だけの境涯から云ひましたならば到底是は理解することの出来ないことであります。果してゼネバで開かれまして先年の國際聯盟の會議に於きましては世界各國、シヤムを除く外あらゆる國々が日本の

執りました行動を正しからざる行動と致しまして否決をしたのであります。

大體滿洲に一つ獨立國を拵へて、そこに王道樂土を建設し日滿兩國民を初めとして五族共和の美しい政を布かうなんといふことはヨーロッパ流の植民政策から考へましたならば氣狂ひの沙汰であります。彼等はそれを唯日本が世界の耳目を蔽ふ爲にする一つの偽装手段に外ならない、肚の底は侵略主義だ、自分等が折角これまで世界各國に手を伸し足を伸して拵へあげた既成植民地或は努力範圍といふものを後れ馳に日本が起ち上つて搔つ拂ふ爲にかういふことをするのだ、さう取つたことに無理はないのであります。自分のやつたことを以て人の心を測れば正にさう思ふことに少しも無理はない。日本の國は天孫降臨の古から神武天皇の御東征、日本武尊の東國の御平定或は此の近畿地方をめぐりまして御歴代、あちらに皇城をお遷し遊ばされ、こちらに皇城をお遷し遊ばさる、其の御經營の大御心すべて皇化の潤をして普からしめ、神武天皇の仰せられました、八紘を以て宇となす、此の八紘を蔽ふ、といふやうに廣く御德政をお布き遊ばさる。明治天皇が御一新後間もなく仰せられました御宸翰に「天下億兆一人モ其處ヲ得ザル時ハ皆朕ガ罪ナレバ」と仰せら



れた。此の大御心が日本の内政は素よりのこと世界人類全般に對する日本 天皇陛下の御慈しみであります。

是は單なる形容でも何でもありません。御歴代の天子様は世々此のことを御志としてお政をお執り遊ばされて居るのであります。陛下側近にお仕へ下される方々から私は屢々聖上陛下の此の點に就きましての最も深い御軫念といふものを承つて其の度毎に感涙を禁じ得ないものであります。そんなことを一體どここの國の元首が考へるか、又天子様の左様な廣大無邊な思召を奉じて其の儘に命を的に働く國民が餘所の何處にあるか、今までの世界の歴史では少くも我が日本の外にはそれは見出されないのであります。今回の事變の意味は正にそこに存するといふことを吾々は深く覺悟をせねばなりません。

事變の初め、昨年夏の夏事變豫算を決議致しまする爲に臨時議會が開かれまして當時お下しになりました御勅語に於きまして其の御精神といふものは明かに吾々國民にお示し遊ばされてをります。「東亞ノ眞ノ安定ヲ圖ル」東亞の眞の安定を圖ると一口に言へば何でもないやうなことでありまするが、悲しいことには東洋の所謂有色民族は日本を除くの外は

悉く所謂世界列強の爲に虐げられ搾取せられ、久しきに亘りまして誠に天日をも仰ぐことの出来ないやうな不幸の目に遭つて居るのであります。支那も其の一つであります。

或る國々の巧妙な政策の爲に操られましたるに其の爪牙にかけられましたる四億の民衆が塗炭の苦しみに溺せんとして居るのであります。此の難局に當りましたる東洋民族の爲に正しからざる者を匡し、服はぬ者を順はしめるといふことは一に日本の國に懸つてをりまする現代の大使命であります。これが今度の事變の真相であります。已むに已まれないことであります、随つて蘆溝橋事件だけで終熄する筈がありません。また北支だけで止め得べき譯合ではないのであります。瞬く間に蘆溝橋の事端は北支全般に擴がり又北支全般に擴がりきらないうちに中支南支に波及を致し、愈さうなつて見ますると事件の裏には又ロシヤがありイギリスがありフランスがありアメリカがあり、別の意味に於きまして又ドイツがありイタリーがあり、此の事端は先年の歐洲大戰と云ふやうな、さういふ形の上の大戰争といふことには發展は致して居りませぬ、けれども實質に於きましてはそれ以上の大事變であります。今日世界の各國は苟も雄邦列強と稱へられるやうな國々は此の事變を繞り



まして所謂興亡の岐路に立つて居るのであります。其中心の立役者として世界の舞台に登場して居る者が日本であります。

我が皇軍は、吾々の同朋、皆様方の御親類からも多數御出征のお方がございませう、皆様のお子様で既に靖國の御祭神になつて居られる方もございませう。皆様のお父様で既に御國の鎮めとして靖國神社の祀をお受けになつて居られる方もありませう。さういふ方々の盡忠報國の誠によりまして世界の戦争の歴史にも未だ曾て見ることの出来なかつた偉大な功を立て、お居でになる。支那の軍隊に日本の皇軍が敗けるといふことはありませぬ。素より日清戦争の時より見ますれば今日の支那の軍といふものは非常に精銳の度を加へてをります、又武器も恐らく事變の當初に我が皇軍の持つてをりましたのよりもつと優秀な武器も持つて居つた。飛行機も日本の飛行機より支那の飛行機の方が性能が上であつたかも知らぬ。にも拘らず我が皇軍の將士があれ程偉大な業績を擧げて居るのは何か、それは日本軍であるからであります。

つい先達、私は千葉縣を旅行致しまして汽車の中で、飛行學校の教官かと思しき飛行將

校のお方と乗り合はしました、其の方々が、何故日本の空軍が強いかと云ふことを話し合つて居られました。どうも向ふの機械の方が性能が上だ、それでもこつちが勝つのはどういふ譯だらう、といふことを論じ合つて居られたのであります。結局議論が、それは氣合の問題だ、日本人の戦をする時には、昔は戦場に出て「我と思はん者は」と自ら名乗を擧げて脊中にはちやんと旗指物を立て、「遠からん者は音にも聞け」と云ふ譯で、好き敵を選んで一騎討の勝負をし、組討に依つて勝敗を決した。今日の空中戦が丁度昔の戦場に於ける武士と武士との組討の如く、組討に依つてのみ勝敗が決せられる。その出来るのは恐らく世界中で日本人だけだらう。これが日本の空軍の強い理由ではあるまいか、といふことを其の若い飛行將校の方々が話し合つて居られたのであります。

又先般某地の師團が多數打揃つて凱旋せられました。最初の凱旋とて私は今後のお手傳の仕方を考へる上にもこれは教へられる所大きいだらうと思ひまして東京から出掛けまして其の師團管下に参りまして師團長閣下にお目にかりまして親しく御禮を申し上げ御慰勞の言葉を申し上げたのであります、其の時に其の師團長閣下の仰せられまするには、實



は自分が出征する以前には、どうも此の頃は小理窟ばかりやかましい連中が殖えたり昔程勤勞の美風と云ふものが内地に於て現れて居らぬから、或は日本の兵隊も日清日露の戦役の時と比べて見ると少し弱くなつて居りはせぬか、といふことが大層氣に懸つた。其の爲に戰場に臨むまでは病氣になる程心配したものである。けれどもいざ支那軍と砲煙彈雨の中に相見えるといふことになる。今まで自分の心配して居つた部下の將卒共に揃つて誠に人力を以て現はすことの出来ないやうな偉大な勳功を立て、呉れた、眞に生死を超越した、人間業と思ひ難いまでの働を現はして呉れたので何とも云へない有難い心持になつたが、どうしてそれが出来たかといふことをつらく考へて見ると、それは畢竟、お互が日本人であるから、といふことである。吾々の此の五體を流れて居る血潮の中には御先祖から戴いた尊い日本の魂がこもつて居る、お互に國に居る時に戴いた育つて来た米の御飯の中にもそれが流れて居る。お互に育つて来た日本の社會の中にもそれが生きて流れて居る。草木山川すべて吾々を養つて呉れた力が日本其のもの、魂である。それをお照し遊ばされるのが上御一人の大御稜威である。日本人なればこそ、陛下の御家來であればこそ吾

々は敵と砲煙彈雨の中に見ゆる時に當つて、吾々の裡に藏されて居つた本當の魂が目を感じたから、左様な人間業を以て企て及ばないやうな大きな働が出来るのであると思ふ。其の人一人々々が何も智慧才覺が勝れて居つた譯でもなければ、其の人の射撃術が特に優秀であつた爲でもないが、其の人が萬人に勝れた支那の項羽見たやうな力持であつた譯でもない、吾々が日本に生れ、日本の人間として、日本人の魂と云ふものが戰場に目を覺したが故に自分でも測り知ることの出来ない程の大きな働が出来たのであるといふことをつくべく考へた。いつも自分は兵隊に此のことを申聞かして決して自分が偉いから御奉公が出来たと思つてはならない。金鵝勳章を戴いたから自分は偉いのだと思ひ上つてはならぬ、それは皆御國のお蔭であり御先祖から戴いた血潮のお蔭であり、其の魂のお蔭であるといふことをよく、肝に銘じなければならぬと云ふことをいつも部下の人達に申聞けて居る次第でありますといふことを其の師團長閣下が仰せられました——涙を流して仰せられました。承つた私も思はず感涙に咽びました次第であります。そこに本當に日本人の御奉公の極致があるのであります。



皆さんのお友達、皆さんのお父さん、或は皆さんのお子さんにして靖國神社にお祀り申上げてあります方は今日既に十四万柱に近い程の數に上つて居られるのであります。靖國神社は別格官幣社、御當地に御鎮座まします和氣清麻呂公をお祀り申上げました護王神社と同じ御社格であります。吾々の兄弟、吾々のお父さん、吾々の息子でありましたも、一たび此の大和心に目覺めて、陛下の御馬前に一切を捧げ奉ることによりまして、和氣清麻呂公と同様に、國家皇室のお祀りに預ることが出来るのであります。

申すも畏多いことではありますが、明治天皇以來靖國神社の合祀大祭の際には屢々天皇陛下の御親臨を忝うしてをります。今回の日支事變の戦歿者に就きましても去る四月二十六日に、天皇陛下には親しく靖國神社に行幸を遊ばされまして、護國の英靈、吾々の兄弟、吾々の父、吾々の子の御靈の前に、最もお手厚い御拜禮を賜はりました次第であります。これは皆様御記憶に新たな所であります。

其の當時私は丁度こちらに罷り出て居りまして、御當地に於きましても誠に嚴肅且つ盛大な慰靈の祭典を執行せられたことを承知致してをります。これが日本國民の御奉公の道

の鑑であります。餘所の國の者の考へ方から致しましては理解出来ないかも知りませぬが、恰も明治天皇が仰せられましたる如くに、之を古今に通じて謬らざる天地の大道其のものであります。どこへ持つて行つても斯の道が當嵌らぬと云ふ所はないのであります。然るに世界の餘所の國々では斯の道が十分に行はれて居らない。例へば吾々の日常履み行はなければならぬと考へてをりまする仁義と云ふ言葉も支那から傳はつて來た言葉であります。孔子様の學問から日本に仁義と云ふ言葉が傳はつた。それ以前にも同じ意味のことを「いつくしみ」「うつくしみ」色々に日本では申してをります。仁義と云ひ或は愛と云ふ、それは字としては支那から傳はつて來たものでありまするが、支那には「仁義」の言葉はありますが、孔子様の御在世時分から今日に至るまで數千年の間、仁義の道は行はれて居らぬ。孔子様御自身でさへも道を説いて諸侯の間を廻つたけれどもこの國でも之を用ゐて呉れる者はないのであります。多勢の眞面目なお弟子を連れて、あつちへ行つて斷られ、こつちへ行つて斷られ、生涯艱苦窮乏のうちに終られ、死後に孔子の道が行はれたかと云ふと行はれて居らない、それは日本に渡つて、大和魂と孔子の説かれた道とが結



びついで、そこに實踐道德として現れて、武士道の精華といふものが築き上げられ、延いてこれが明治御一新の大きな力となつて働いた。餘所の國、印度でも或はエジプトでありませうとギリシヤでありませうと或はユダヤでありませうと色々な聖人賢哲の士が現れて深遠な道を説いてをりまするが、それらの國々は今何處にある。殆ど悉く世界地圖の上から其の影を消して居るのであります。道が行はれないからであります。

今日吾々は日本の國の開闢以來の使命として目指す所を大陸に向つて踏み出したのであります。偶然に踏み出したやうでありますが、先刻來申上げます通りに、歴史を振り返つて見て、我國がこれまで何を理想にして今日に及んで來たかといふことを考へまする時に、今回の事變といふものに此の上もない積極的な重大な國運を賭しても是非とも此の事變の究極の目的を達成せねばならぬ、必至の歴史の段階を一步々踏んで居るのだといふことが誰にでもはつきり分るのであります。小學校で授けられる歴史教科書を読んだだけで分る。専門的な歴史學の研究をせずとも小學校の國史の一章々々を読んだだけで此のことは簡明卒直に誰にでも分るのであります。

又一方世界の國々の此の事變に對する態度、餘所の國と支那の問題との間の關係といふものを少しく活眼を開いて考へて見まする時に、此の事變は假令皇軍の將兵の奮戦力闘によりまして、蒋介石軍を日本の皇軍が叩きつけることになりました、——それはなるにきまつて居るのであります、そんなことは問題はないです。けれども日本の軍隊が戦さに勝つてもそれだけで此の事端は終熄するのでない。其の後ろに對世界的な大きな問題を控えて居る、それが判り分るのであります。

近來閣僚諸公を初めとして速戦速決といふことを熱心に唱へて居られる、それは洵にさうでなければなりません。随つて最近に於きましても御當地方に動員の下令があつて多く皆さんの御兄弟御親類御友達が現地に出發をされて居るのであります。全力を盡して徹底的に事態を切り開いて行かなければならぬことに少しも疑問はないのでありますけれども、戦さに勝つただけで今回の日支事變の意味といふものが完全に發揚せられるか、例へば今年のうちには蒋介石政權を打倒することは出来る、支那軍を完全に撃滅することが出来れば、今年のうちには、丁度日露戦争の時に奉天の大會戦を機會と致しまして、双方の間に



休戦條約が行はれて、延いてポーツマス條約になつたやうに、吾々の同胞が打揃つて芽出度、萬歳々々の裡に日本に凱旋して來ることが出来るか、それは出来ないであります。出來ないといふことを私ははつきり申上げる。今まで世界の戦争の歴史に類例のなかつた大事變であります。吾々の同胞は支那軍を討從へることが、出來ました後も代るく、丁度大楠公様の七生報國の御誓と同じやうに、代るく現地に参りまして御國の爲に——これは餘所の國の人間の了解出來ることでないのでありまして、了解出來ないことであるが——御國の爲又支那人の爲延いて東洋全體の爲又世界人類の爲に全力を盡して御奉公をしなければなりません。さうでなければ此の事變の意味といふものは吾々の御奉公に依つて之が解決せられることは出来ない。省みて日本の人口はどうか。外地人口を合せて九千万に過ぎない。支那はよく分りませぬが昔から四億と傳へられて居る、五億あるか六億あるか、誰も勘定して見た者はないのであります。支那人自身も知らない、領土も日本の數十倍ある、相手が支那だけではない、背後に色んな國がある、丁度日清戦争、日露戦争の時に世界が日本は此の戦争に依つて潰れると考へた以上に今日はもつと

く大きな舞臺に吾々は乗り出して居るのであります。ドイツもイタリーも吾々の友邦である。これは洵に喜ばしいことでありますけれども、國際間の離合集散のことは、さう日本人のやうな人の好い考を以て餘所の國を相手にして居つては時として大きな目算違がないとは限らないのであります。ドイツは日清戦争の時には三國干涉の發頭人でありました。黄禍論と云ふ議論が世界に行はれたこともありましたがそれはドイツのカイゼルが唱へたのでありましてムツリーニもつい此の間まで黄禍論らしいやうなことを唱へて居る、エチオピア事件の時に日本はエチオピアに同情して、皇后様まで日本からやらなければならぬといふ論さへあつた。ロシアの赤化戦に對してドイツとイタリーとは吾々の最も親しい友邦でなければならぬことは素よりであります、けれども吾々は徒らに他人の力にのみ頼つてはならないのであります。ドイツがついて居るから、イタリーがついて居るから大丈夫だと考へる、さういふ心持が餘り強くなりますとドイツもイタリーも日本から離れてしまふのです。誰が自ら頼むことも出來ない人間に國力を割き、國運を賭して援助する者があります。銘々自分の國が一番可愛いのであります、それに間違はないのであります。



す。餘程そこに吾々は今日深い覺悟を決めなければならぬ。さすれば究極頼るべきものは何か、吾々自身であります。日本人自身自ら頼らなくては、自ら任じなくては此の事變といふものゝ究極の目的を達することは到底出来ないであります。誰にでもそれは出来ないことかと云ふと誰にでも出来ることではありません。現に吾々の兄弟が第一線でそれをやつて居るではないか、人間業で出来ない程の大きな仕事をして居るぢやないか、銃後に残つて居る者にそれが出来ない筈はないのであります。

先般來私は南鹿兒島縣から大分縣へ出て福岡縣を廻つて兵庫縣を経て御當地に参りました。二週間程旅行を續けてをります、銃後の護りといふことに就きまして、少しでもお手傳が出来ればと思ひまして、色々行つてお百姓衆とも屢々膝を交へて御相談致しましたが迎も頭の下ることばかりであります。如何なる僻遠山村に入つて見ましても出征軍人遺家族に對しましては村の全力を擧げてお手傳をして居る。今年は單に召に應じて戦地に行かれた方々、國民の中堅であります一番力強い働手が留守になつて居ると云ふばかりでなくして、軍需工業に、日本生産力の擴充の爲に若い働手はみんな——と云つては言ひ過ぎ

かもしれぬが、大部分村を留守にして或は戦地に或は工場で働いて居るのであります。村は非常に手不足であります。定めし手不足の爲に收穫も十分に行かなかつたらう、裏作の菜種、麥、そんなものもと入れが後れて雨に濡れて腐りはしないか、軍馬の徵發を受けた者が非常に多い、耕すのに困つて居るだらう、田植の人手が足りない、春のお蠶はどうなつたか、一々さういふことが氣にかゝりまして具さに村の方々と御相談をして見ますると意外なことであります。今年は普段よりは手廻りが宜しい、刈入も早く済んだ、田植も普段より五六日早く済んだ、小麥や菜種の收穫も去年より私の村はよかつた、あすこの村は丁度豪雨が降つた爲に立腐があつたが私の村にはさういふことがなかつたからよかつた。此の春も大分此處から西の方は豪雨の禍を受けて居ります。丁度私は其の頃にあちらの村々を廻つてをりましたので雨がひどく降つた所は若干損害を受けてをりますけれども全體から考へますと收穫には障りがなかつたのみならず去年より餘計取れたし去年よりは早く仕事が片附いたと云ふ所もあるのであります。

これは算盤勘定だけで考へると洵に理窟に合はない話でありますけれども、日本は由



來さういふ國なんであります。今日吾々が食べ物に不自由をして居らないといふことは洵に有難いことでもあります。これ程の大戦争をして夥しい日本の歴史あつて以來初めての多數の軍隊を大陸に出してこれ程の大戦をして居つて食べ物にあまり難澁をしない、これも世界の奇蹟の一つであります。例へばドイツは戦争中から食べ物に非常に難澁をして居りました。ドイツは或る意味での農業國でありますけれども、世界戦争の時には公園でも道路でも皆潰して馬鈴薯を植ゑたりしてやつとこさ戦争の備に應じて居つた。戦争が済んでからドイツは戦さに敗けた爲に其の食糧を供給するアフリカから南洋諸島にかけての植民地を取上げられてまだ回復を致して居りませぬ。ドイツは只今ヒットラー總統の指導の下にナチスの運動といふものを極めて活潑に行つて戦後の窮乏ドイツから着々建設復興の歩を進めて居るのであります、けれどもドイツ人は吾々程食べ物を腹一杯食べて居らないのであります。今日でも總統ヒットラーを初めとして向ふの國では、例へば吾々の米の飯に澤庵香々と云ふ所を向ふではパンとバターと云ふのであります。パンもバターも眞ん物は食つて居らぬ、パンには馬鈴薯が混つて居る、何十パーセントの馬鈴薯を混ぜ

て薯パンといふものを國民全體食つて居る大總統も各省大臣も其の薯パンを嚙つて居る。バターもドイツは大層良いバターの出来る所であります、我國にも澤山來てをります、ホルスタイン種の乳牛といふものはドイツとデンマークの間に出来るのであります。非常に立派な牛の居る所でもあります、どんな立派なバターが出来てもそれは國民の口には入らないのであります。國民は人造バターを薯パンに塗つて食べて居る。立派な牛乳から取りましたバターは悉く輸出に充て居るのであります。さうでなければドイツのマルクの爲替相場を維持することは出来ない。外國貿易の決算尻を調へる爲に折角立派なバターが出来ましてもこれは輸出をして自分達は脂臭い人造バターを嘗めて三度々々の食事をして居る。吾々は自ら考へて洵に勿體ないことであると思はなければならぬのであります。

日本の富、日本の資源、日本の人口此の儘を以てして此の事變を今後一年二年三年四年五年十年恐らくあと何十年續くか分りませぬ。明治御一新以後、吾々の先輩の苦心努力に依り幾多護國の英靈が一切を捧げての御奉公によりましてこゝまで來たのであります。これから對世界的に一番廣い舞臺に吾々乗り出した譯であります。此の時代を預りました



現代の日本國民であります吾々は生優しい覺悟を以てもう來年あたりは事件が濟むだらうから、さうしたら樂が出来るだらう、さういふ考では決して御奉公は出来ないのではありません。と同時にそこは我が日本の有難さであります。どんな缺乏が來ましてもこれが御國の爲である、天子様の爲であると云つたならば、丁度戰場で弾に中つて倒れる勇士が、斃れる時に 天皇陛下萬歳を叫んで笑つて命を致されると同じ心持が吾々の日常生活の上にも普段の暮しの上にも立派に現れるのであります。誰でも出来るのであります。靖國の御祭神がなされたと同じに誰でも出来る、男にも女にも年寄にも子供にも誰にも笑つて御奉公が出来るのであります。本當に覺悟さへきまればさういふ風にお互に御先祖から生みつけられて居るのであります。必ず出来る、普段出来ぬと思つて居ることでもいざとなれば出来る。

私は關東大震災の時に東京市役所に奉職を致して居りまして、幾多のさういふ申さば超人間的な働き、超人間的な我慢といふものを自ら親しく見聞を致して承知致してをりませ、逆も素晴らしいことが出来るのであります。さういふ艱苦缺乏の裡にあつて御國の爲

に盡すことは吾々に取つて辛いことか、辛くないのであります。これはお國の爲なりと思へば吾々は笑つて餓え死も出来るのであります、笑つて餓え死する心持であれば決して餓え死はしないのであります。

こゝに例へばムツソリーニのやうな或はヒットラーのやうな英雄豪傑が出て來ませずとも、平凡な吾々が九千萬人相集まり相寄つて、上御一人の御聖慮を奉戴致しまして盡忠報國の誠を效すことによりまして、此の日本は英雄の力なんかには依らなくても、天壤と共に窮りなく榮えることが出来る。(拍手)

此の頃段々世の中が、難しくなつて來ますにつれて、顔色の青い知識階級なんかの間には「英雄待望論」誰かかういふ艱難な時局に當つて英雄が出て來て世の中を救つて呉れたらよいだらうと云ふ、蟲の好い無精な考を懐く人がないでもないやうであります。併し假りに日本にムツソリーニ見たやうな人が出て來なければ日本が立ち行かないと云つたら、お互に日本國民としてそれは深く恥ぢねばならぬことであると思ふのであります。

(拍手)



私は丁度ムツソリーニが北イタリアから黒シャツ青年隊を率ゐてローマに乗り込んだばかりの時に、ローマに居りましてローマの實情を具さに見てをりますが、氣の毒なものだと思つたのであります。

イタリアと云ふ國は今日吾々の友邦でありますから餘りさういふことを云ふと叱られるかも知りませぬが、それまでのイタリアは随分厄介なことの多い國でありました、今はさうではありませぬけれども乞食や泥棒の頗る多いのがイタリアであつたのであります。

(笑聲) ヨーロッパ戦争に参加しましたけれども、これは館閣下が御専門で居らつしやるから能く御存じであると思ひますが、後れ馳せに参加して殆ど大戦に依つて報はれることなくして失ふ所ばかり多かつた。國民は遊惰放逸の民が多きを占めて居る、外國の見物人の懷を當にして自分は成るだけ遊んで食つて行かうといふやうな者が非常に多かつた。あそこには名所舊蹟が多い、御當地も多いけれども京都人なんかはそんな懷手で遊んで食つて行かうといふことは考へて居ないが、イタリアには非常にそれが多かつたのであります。そこへ以て來て直ぐ御近所へロシアの共產主義革命があつて其の革命の勢、赤化思想

の嵐といふものはまるで奔流のやうな勢を以てバルカン諸國を経てイタリアに吹き荒んで來て、上下共に之に對して爲す所を知らない、放つて置けばイタリアは其の儘潰れてしまふかも知れぬといふことになつたのであります。そこにムツソリーニが出て來まして、これではならぬ、といふことで眞面目な青年を糾合致しましてそれに黒シャツを着せた。何故黒いシャツを着せたか私はよく存じませぬが、黒シャツを着た青年隊を率ゐてローマに乗り込んでイタリア皇帝に拜謁して一切の政權をお預りした。こんなことではならぬこれから私がやつて上げませう、今までの政府の要員はみんな之を放逐してしまつて議會も閉鎖同様にしてしまつた。俺がやつてやる、お前等では何ともならぬ、かういふことでやつと秩序を回復したのであります。

其の後の久しきに亘つて拮据經營致しまして今日イタリアの國內には既に乞食小泥棒といふものは大體影をひそめたさうであります、國民の本性が治つて居るかどうかこれは分らない。(笑聲) 随つてムツソリーニが健康であるか否かといふことがイタリア國家に取つての一大事であります。大體閣僚、軍の首脳といふやうな人は皆ムツソリーニの親友



か親類ばかりであります。ムツソリーニが居なくなつたら役に立たない人も中にはあるだらう。誰が其の後を繼いでイタリアを引受けるか疑問であります。

丁度エチオピアの事件の頃、ムツソリーニの健康が宜しくないと云ふ噂が各國に傳はつたのであります、何でもムツソリーニは胃痛に罹つたさうだ、もう手術しても手後れださうな、此の噂は日本にも傳つて参りました。これはイタリア國家に取つて一大事でありませう。胃痛ではなかつたらしいのであります。現にムツソリーニは健康に生きて居られる（笑聲）併し世界各國共に當時はさう信じた。或る朝ムツソリーニが内外の有力新聞通信記者を總理の官邸に招集をして、重大発表がある、と云ふものですから、みんなムツソリーニが何を發表するか、と思つて官邸に集つて行つた所が、彼は乗馬靴を穿いて馬場へ出てさうして愛馬に跨つて一鞭當て、大元氣に馬場をぐるぐる乗廻して見せた。一汗かいて、「どうだ諸君、わしの健康にこれでも疑問があるか、さういふことを言つて其の儘部屋にすうつと入つたと云ふのであります。それでイタリアの國情が非常に安定をした、ムツソリーニが痛に罹つたと云ふデマがそれで解消をして物情が落ち付いたと云ふのであり

ます。危い話であります。（笑聲）幸ひに痛に罹つて居らなかつたからよかつた、けれども痛に罹つて居つたらどうなるか、吾々はさういふ一人二人の英雄豪傑の力だけに頼つてはならぬ（拍手）それでは天壤と共に無窮に皇運を扶翼し奉ることは思ひも及ばぬのであります。現にイタリアはローマの古から幾多の英雄天才を生んでをります。シーザーもイタリアから出た、ナポレオンもイタリアから出た、ルネッサンスの大天才として永遠に其の名を傳へられる、ラファエル、ミケランゼロもイタリアから出た、ガリバルヂも出た。最近ムツソリーニも出た。こんな英雄天才の屢々出て来る國でありますけれども、イタリア興亡の歴史を眺めまする時に、英雄天才が出た時に其の國は華かに榮える、が其の人が去ると國は衰へ或は滅びる。今日のイタリアとローマ帝國とはまるで別の國であります。國亡びて山河あり、と云ふのは此のことです。

日本は決してそんなことになつてはならないのでございます。どうしたらそんなことにならずに立派に神武天皇の仰せられました、八紘一宇の建國の大精神を世界に顯揚することが出来るか。それは吾々が一人々々、年寄であらうが若い者であらうが子供であら



うが、或は商業に従事する人であらうが、工業に従事する人であらうが、お百姓であらうが、兵隊さんであらうが、學校の先生であらうが、一切の人々が、自分々の職分に應じて恰も靖國の神々のお示しになりましたと同じ志を以て、全身全靈を捧げて其の職務を忠實に實踐躬行し奉ることによりまして、此の國はいつまで経つても、無窮に愈々繁榮をつげることが出来るのであります。(拍手) それ以外に國民御奉公の途はないと私は考へる。又それ以外に此の時局に處すべき國民の心構はあり得ないと思ふのであります。(拍手) 此の心持を以て行つて解決が出来ないやうな難局といふものは又決してあり得ないのであります。これさへあればどんな難しいことでも必ず片が付く。難局が却つて國運進展の段階となるのであります。(拍手) 難局を打開し得ない者に取りましては難局は禍でありませう。難局を一步一步踏み破つて更に向上の一路を辿り得る國民に取りましては、此の難局こそは千載一遇の機會であります。(拍手) 今日難局に當面致してをりまする者は單り日本のみではありませぬ、世界のどの國でも興亡の峽れ路に立つてをります。イギリスもさうだ、ロシヤもさうだ、アメリカもさうだ、フランスもさうであります。世

界の列強といふものは今日の時局を境と致しまして或は顛落をし或は將來繁榮をする、人類の歴史あつて以來の最も重大な變轉の時機であります。吾々は此の機會に幸にも御國に生を受けましたことを衷心感謝しつゝ、皆様と共に手を携へて億兆心を一つに致しまして天皇陛下の御爲に御奉公を致さうではありませぬか。(終)(拍手)



昭和十三年八月一日印刷  
昭和十三年八月五日發行

【非賣品】

發行者 京都市右京區松尾 松尾神社内  
菅 貞 幸

印刷者 京都市下京區河原町高辻上ル  
横江 重太郎

發行所 京都市東山區今熊野日吉町太閤垣下  
京都府神職會

電話祇園⑥八〇〇番  
振替京都四二六九番



